

患者の皆様へ

2019年2月26日

現在、千葉市立青葉病院では、千葉大学大学院医学研究院精神医学教室の「悪性症候群」に関する研究に協力しています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では(2007年1月1日～2017年12月31日までに中等症以上の悪性症候群で入院治療された患者さん)の診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「悪性症候群に対する修正型電気けいれん療法の有用性を検討する多施設における後方視的カルテ調査研究」

2. 研究の意義・目的 「中等症以上の重症の悪性症候群の患者さんを現在、一般的に最もよく使われている薬剤であるダントロレンのみで治療したグループとダントロレンと合わせて電気けいれん療法を行ったグループのどちらが早く回復するかを調査します。多くのデータを集めて、統計解析を行うことで、どちらがより良い治療法であるのかを検討することが可能になり、中等症から重症の悪性症候群の患者さんに対してより良い治療を選択するための根拠となります。」

3. 研究の方法

2007年1月1日から2017年12月31日の間に診療録に記載されている性別、年齢、基礎疾患、内服薬の種類や量、血液検査結果、血圧・体温・脈拍・身長・体重、悪性症候群に対して行った治療の種類・方法・期間・副作用などから悪性症候群に対する電気けいれん療法の効果を調べます。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院精神医学教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 外部への試料・情報の提供

本研究は千葉大学附属病院、総合病院国保旭中央病院、亀田総合病院、成田赤十字病院、青葉病院で実施する多施設共同研究です。これらの病院から情報を匿名化した状態で千葉大学大学院精神医学教室にデータを送ってもらいます。患者さんの診療情報は千葉大学大学院精神医学教室で集計、統計的な解析をいたします。千葉大学大学院精神医学教室からデータの提供は行いません。

6. 研究組織

千葉大学大学院医学研究院 精神医学教室 教授 伊豫雅臣

総合病院 国保 旭中央病院 神経精神科 部長 青木 努

亀田総合病院 心療内科・精神科 部長 小石川比良来

日本赤十字社 成田赤十字病院 第一精神神経科部長 斎賀隆久

青葉病院 成人精神科 統括部長 野々村司

児童精神科 統括部長 篠田直之

慶應義塾大学 医学部衛生学公衆衛生学教室 准教授 佐藤泰憲

7. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づい

て掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学大学院 精神医学教室 伊豫雅臣
国保 旭中央病院 神経精神科 青木 努 (情報の提供のみ)
亀田総合病院 心療内科 小石川 比良来 (情報の提供のみ)
成田赤十字病院 精神科 斎賀 隆久 (情報の提供のみ)
青葉病院 精神科 野々村 司 (情報の提供のみ)

本件のお問合せ先 : 千葉市立青葉病院 精神科
統括部長 野々村 司 (ののむら つかさ)
043 (227) 1131 (代表)

千葉大学大学院医学研究院 精神医学教室
医師 橘 真澄 (たちばな ますみ)
043 (222) 7171 (大代表)

研究代表機関 : 千葉大学大学院医学研究院 精神医学教室

研究代表者 : 伊豫雅臣